

恩納地区大規模増殖場調査

島袋新功・玉城 信・藤本 裕・金城武光・前田訓次

本調査の詳細は、昭和59年・60年・61年度「沖縄県栽培漁業センター事業報告書（沖裁セNo.1）」に報告したので、ここでは要約を示した。

(1) シラヒゲウニ漁業資源の維持培養を目的とした沿岸漁場整備開発事業「恩納地区大規模増殖場」が、昭和56～57年に恩納工区、57～59年に今帰仁〔区〕の2工区で造成された。両工区とも沖合い側に300 mのコンクリート潜堤と300×200 mの投石による着底および育成礁が造成されている。この大規模増殖場におけるシラヒゲウニの生息量調査をトランセクト法で行った。

(2) 恩納工区のシラヒゲウニの平均生息密度は0.25個/ m^2 、総生息量約16千個と計算された。殻径組成では、1オウニが多いことから、天然における資源の添加量は大きいと考えられた。

増殖場内外にはシラヒゲウニの競合生物であるナガウニが多く生息しているので、増殖場の効果を上げるためにナガウニの駆除を検討する必要がある。また、増殖場内は約5 cm以下のシャコガイ類が多く、その平均生息密度は0.36個/ m^2 で、施設外の0.06個/ m^2 に比べ約50倍の高い値を示すことから、投石による増殖場はシャコガイ類の増殖にも効果があると考えられた。

(3) 今帰仁工区は、今帰仁漁協によってシラヒゲウニの移植放流漁場として利用され、移植前（漁獲後）の総生息数0.9千個、移植放流後が平均生息密度0.23個/ m^2 、総生息数が約14.0千個と計算された。本増殖場は、ウニの漁獲強度が非常に高く、また、天然における資源の添加が非常に少ないと考えられた。

増殖室

6. 魚病対策事業

151 ページ

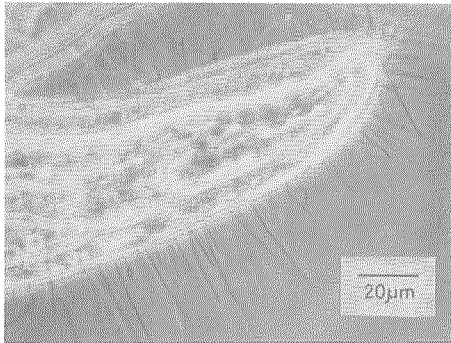


図-2 タイワングザミに付着した糸状菌

151 ページ

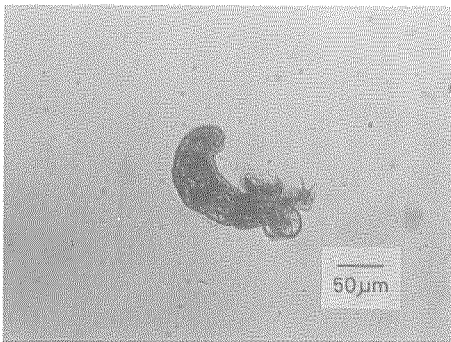


図-4 ミナミクロダイの鰓に寄生していた *Lamellodiscus spari*

152 ページ



図-6 雌に付着する *Alella* sp. の雄

151 ページ



図-3 糸状菌及びゴミの付着

152 ページ

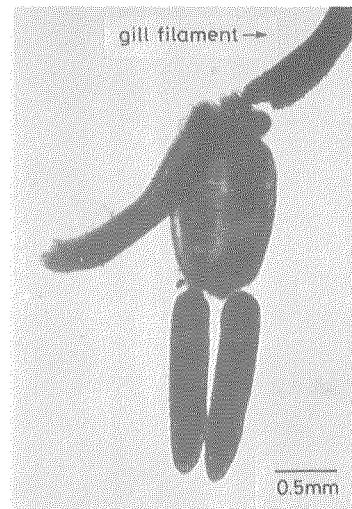


図-5 ミナミクロダイの鰓に寄生していた *Alella* sp. の雌

八重山支場

7. 魚病対策試験

175 ページ

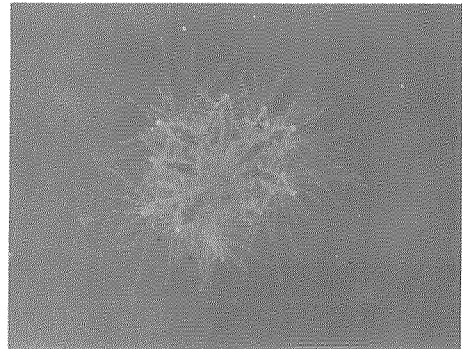


図-1 ヒドロ虫 (ポリプ) : 大きさ約 5mm